

## 別記③ 各種機能

### 3 . 各種機能における基本計画

#### 3 - 1 . 本施設の各種機能

##### ( 1 ) 図書館機能



#### 情報と人、人と人の出会いを生み出す図書館

本施設の核となる機能が図書館機能です。本施設の基本コンセプトでも挙げた「情報と人、人と人の出会いを生み出す図書館」のコンセプトを理念に置いた運営ができる図書館とします。

現図書館では、規模が狭いためサイレント（静かに本を読む）スペースと、乳幼児・児童向けスペースの両立、ヤングアダルトコーナーの設置、ベビーカーや車椅子での利用者が使いやすい動線確保等が困難でした。また、子どもの目線や車椅子目線では本を探しにくい高さになってしまふところも多く、利用しやすい書架配置が難しいところがありました。本に親しんでもらうことや図書館をきっかけに交流を生み出したいとさまざまに企画してきたものの、施設づくりによる限界もありました。

新たな施設内の図書館機能については、十分な規模を確保するだけでなく、**バリアフリーかつユニバーサルデザイン**で、子どもからお年寄り、障がい者、外国人でも利用しやすく**交流も生まれるデザインと運営**を目指します。足りていなかった図書館スタッフの作業環境についても、拡大する図書館規模に見合うように、**配本室や倉庫、閉架書庫、カウンター等も十分なスペースを確保**します。そして、読書スペースについては、部分的に自然光を取り入れながら、やわらかな光の下で本を読める空間を設けます。

また、これまで図書館の運営のためにボランティア等で尽力してきた団体や市民の協力も、新たな図書館には必要な力です。そこで、ボランティアスタッフが主体的に図書館運営に関わっていただけるように、**図書館機能内にも作業スペースや居場所になるスペースを確保**できるよう設計を工夫します。活動拠点として居場所ができることで、市民の主体性を一層生かした、より良い図書館運営を実現します。

## ( 2 ) ホール機能



### 幅広い創造を掻き立てる、唯一無二のホール

現在市内で活用されている主な公共施設のホールとしては、須崎市立市民文化会館が挙げられます。本計画での多目的ホールは、須崎市立市民文化会館の大会議室よりもさらに広いホールを整備する予定です。これまで市内では開催できなかった大規模のイベントや発表会等を行うことができるホールとして、須崎市内のみならず、高知県内からも利用者が訪れ、さらなる交流や賑わいが生まれることにも繋がります。そして、予約利用がない時でも空間を有効活用するために、バーチャル水族館等の仕掛けを検討し、単なる貸しスペースではなく日頃から人気スポットの1つとして賑わうことを目指します。

ホールの設備自体は、音楽やダンス、健康促進のための活動、創作や展示等の市民によるさまざまな活動及び発表の場として、あるいは、市外からゲストを招いたイベントにも使えるよう、音響設備を備え、客席設営、ギャラリー活用等が可能な多目的ホールを整備します。さまざまな用途に対応できるように、椅子やテーブルは固定式や電動式ではなく、手動で出し入れするタイプのものとしします。なお、ホールは平土間で計画しています。

また、市内外の人々が出会い、交流できる場として機能するよう、多目的ホール内では予約に応じてケータリング等で交流会(宴)の開催も可能とします。バックヤードには簡易的な控え室機能や着替えスペースを確保し、最低限の洗い場等も設けます。

## ( 3 ) 集いの広場機能



### 各機能を拡張させたり交わせる集いの広場

本施設の設計を考える大事なポイントとしては、各機能を繋ぐ共用部(一般的には廊下やホワイエなど)を一つの広場として設けることがポイントです。「集いの広場」として各機能の繋ぎ目になることで、それぞれの機能の面積を必要に応じて拡張させることができ、あるいは、それぞれの機能を持ち寄って交わらせた企画を実施できる空間として活用

できるようにします。

また、常時はエントランスやホワイエとしても機能し、机や椅子などを配置しておくことで、読書・飲食・コンベンション等が可能なスペースとしても自由に活用できる空間とします。

#### ( 4 ) コンベンション機能



### きちんと会もお気軽会も叶うコンベンション

本施設には、人数や用途に応じて多目的ホールや会議室等を予約することで、**会議やワークショップ、プレゼンテーション、交流会等が可能なコンベンション機能**を設けます。

また、少人数でもっと気軽に集まって話し合いたいなどの場合でも、( 3 ) にあげたように「集いの広場」を活用したコンベンション機能、施設内の共用部や内と外をつなぐ縁側部分、屋外の座って話せるスペースを活用したコンベンション機能など、さまざまな居場所を設けることで、わざわざ借りなくてもふらっと訪れた際に自分たちのお気に入りの場所を見つけて、気軽に話し合い、交流することが可能になる空間づくりをします。

#### ( 5 ) クリエイティブ体験機能



### テクノロジーが身近になるクリエイティブルーム

本施設では、**最新のAIやICTに触れ親しむことができる、クリエイティブな学習や体験が可能な機能**を複合し、若者はもちろんのこと、市民や市外から訪れるさまざまな人たちが、最新のテクノロジーを身近に感じることができるクリエイティブルームを設けます。

具体的には、昨今プログラミングを学ぶ若者が増えているため、新たな施設にプログラミング教育が可能な設備を完備するほか、音楽や映像編集が体験できること、3Dプリン

ターの活用などによる最新のものづくりを体験できること、eスポーツを体験できることなどを検討しています。こうした最新技術を体験し、学ぶことができる環境を充実させることで、ITに強い人材を育てる場としても機能することを目指し、市内外から注目されるテクノロジー教育を提供します。

ものづくりの観点からは、地域の伝統工芸や職人から学べるものづくりも体験できるようにし、これからの時代に役立つ先進的な技術を学びたい10代や20代の若者だけでなく、新たなことに挑戦したい大人や生涯学習を楽しみたい高齢者も含め、**老若男女問わず刺激的な研究や創造を楽しむことが可能な場所**とします。

### ( 6 ) 子育て支援機能



## 子育て世代“も”ではなく“が”行きたくなる場所へ

「図書館は静かな場所」というイメージも強く、小さなお子様がいる子育て世代は利用しにくいとってしまうケースも多いです。もちろん、静かに過ごしたい利用者にも配慮し、サイレントスペースの設置や空間設計で工夫しますが、本施設は多世代交流が可能で、子育て世代にも利用してもらえる施設を目指しています。

具体的には、ベビーカーでも通りやすく気を遣わないで過ごせる空間であり、なおかつ目の行き届きやすい空間づくりを目指します。そして、児童図書コーナーの充実やキッズスペースの設置、キッズトイレや授乳室の設置、子育て世代向けイベントの企画などを行う方針で「子育て世代も行ける」施設づくりではなく「子育て世代が行きたくなる」施設づくりを目指します。

### ( 7 ) カフェ機能



## 過ごし方を充実させてくれるやさしいカフェ

本施設には、軽飲食が可能なカフェ機能を設ける方針です。今回は、須崎地区全体の活

性化を目指す「海のまちプロジェクト」も並行して進んでいることもあり、新たな施設ですべてをまかなえるのではなく須崎地区、あるいは須崎市内の飲食店へも足を運んでもらえるよう、あくまでも軽食やコーヒーなどが飲める機能が備わった軽飲食可能なカフェとします。カフェスペースのみならずテイクアウトで一部施設内機能への持ち込みを可能にし、より居心地の良い施設を目指します。

長く滞在したい人やコーヒーを飲みながら読書したい人の要望に応えつつ、しっかりした食事は市内への回遊を促し、環境へ配慮し地域雇用を促進する、あらゆる観点で「やさしい」カフェを目指します。

## ( 8 ) 屋外機能



### “日常”も“非日常”も好きになるみんなの庭

今回本施設の整備予定地は、寺尾公園と隣接しており、敷地内の屋外のみならず寺尾公園までを含む屋外スペースの有効活用が可能になります。そこで、屋外イベントや青空展示会等を想定した空間づくりや設備・照明についても配慮して設計を進め、日常でも気軽に訪れて憩いの場になり、イベント等による非日常空間でも交流が生まれる、訪れる「みんなの庭」のような屋外活用を目指します。

イベントについては、今回複合施設の基本コンセプトに挙げた「縁側」の部分を活用し、軒下のような屋根のある空間を設けることで雨天でも実施できるように配慮します。

## 3 - 2 . 施設機能の基本方針と空間計画

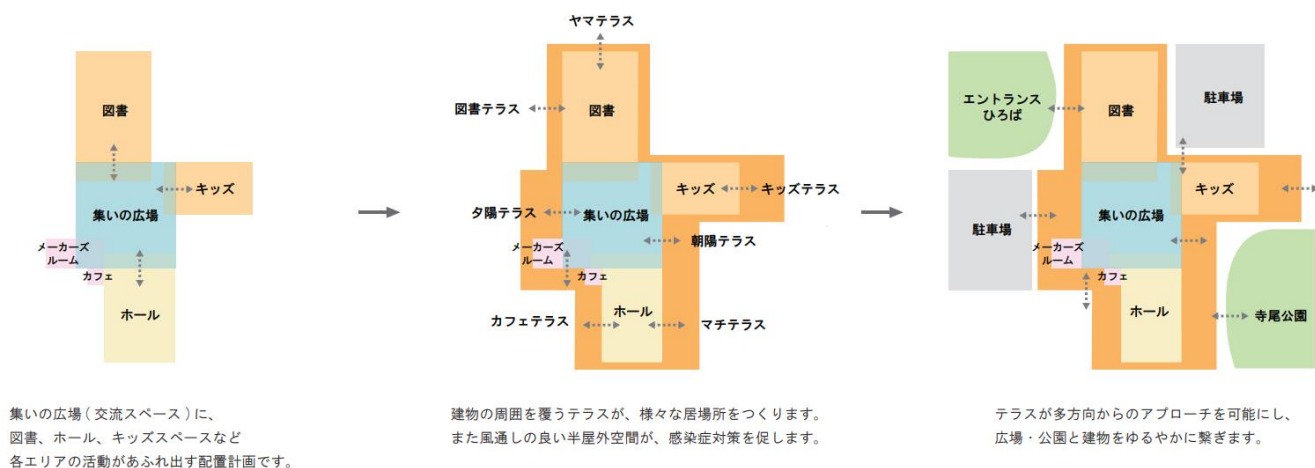
各種基本方針を踏まえたうえで、本計画と並行して検討を進めている基本設計作成事業者とも協議を重ね、複合施設の基本コンセプトにもある“縁側”のある施設として各種機能をつなぐことを大事にします。

図表3—①は、図書館や子どもたちのためのスペース、多目的ホール、ものづくりができるメーカーズルームや軽食が可能なカフェなどさまざまな機能を真ん中に置いた共用部（仮称「集いの広場」）でつなぎ、かつ外側を縁側でつないでそれぞれに「〇〇テラス」と名付けているイメージです。この縁側部分と「集いの広場」を有効活用することで、人数が多い際に足りないスペースも開放的にし、イベント時の会場拡大等も可能になるようにしま

す。そして、各機能が単純に連なるだけでなく、縁側や「集いの広場」でゆるやかにつながることで空間に相乗効果を生み出すことや各方位にある「〇〇テラス」が開かれることで換気の良い空間も生み出せます。

このイメージを踏まえて、図表3—②のように各種機能を「内側」「縁側」「外側」が単独でも融合的にも機能するように整備していくことを方針とします。屋内メインの機能は「内側」が計画規模で、屋外がメインの機能は「外側」が計画規模です。また、各種機能の規模を拡大してくれる「縁側」についてはまとめて屋外機能の「縁側」で記載しています。

図表3 - ① 各種機能をつなぐ“縁側”のイメージ (基本設計検討資料より平面ダイアグラム)



(提供：畝森・teco 設計共同体)

図表3 - ② 施設機能の計画規模と基本方針

機能名	基本方針		計画規模
図書館機能	内側	基本的な図書館サービス（貸出業務やレファレンスサービス等）はもちろんのこと、移動図書や子育て世代に向けた企画サービス、自習等が可能なサイレントルームの設置、対面朗読室の設置、児童向けエリアやティーンズ向けのエリアの確保、飲食可能なエリアの設置等を行い、さまざまなニーズに対応した図書館とします。	1,060 m <sup>2</sup>
	縁側	天気の良い日に日光を浴びながら気持ち良く読書ができる落ち着いたテラス席の空間を設けます。図書館企画のイベント等にも活用しやすい空間とします。	

機能名	基本方針		計画規模
	外側	屋外で開催されるイベントに応じて、簡易的な棚やワゴン等を利用して本の紹介や本を活用した企画ができる施設とします。	屋外機能の外側に含む。
ホール機能	内側	音楽やダンスの発表なども可能な音響を設備し、これまで市内の公共施設では開催できなかった大型規模のイベントや発表会も可能なホールとします。また、展示企画もしやすい設備を備えます。簡易なバックヤードや控え室として利用可能なスペースも設け、ゲストを招いた発表会等の企画も行えるようにします。ケータリング等を活用した飲食を伴う交流会の実施も想定した設計とします。なお、予約時以外もバーチャル水族館などの仕掛けを検討し、常時訪れたいくなる施設の人気スポットになることも目指します。	750 m <sup>2</sup>
	縁側	縁側機能は、内側のホールと屋外をつなぐ拡張スペースとすることで、パフォーマンスの幅が広がるホールとします。また、屋外イベントを室内から見ることも、室内イベントを屋外から見ることも可能で、天候にも臨機応変に対応できる、風通しの良いホールとします。	屋外機能の縁側に含む。
	外側		屋外機能の外側に含む。
コンベンション機能	内側	会議室として使えるのはもちろんのこと、グループ活動やワークショップ等、多様に使える部屋を設けます。	70 m <sup>2</sup>
	縁側	クローズドの会議室のみでなく、共用部や縁側部分のオープンな空間でも意見を交わし合えるよう自由席を設けます。	屋外機能の縁側に含む。
	外側	屋外にもベンチやテーブルなどを設置し、天気の良い日は青空ミーティングができるよう空間デザインをします。	屋外機能の外側に含む。
クリエイティブ機能	内側	プログラミング学習等が可能となるPCルームの設置や映像編集、音楽編集が可能なコーナー、3Dプリンター等によるものづくり体験が可能なコーナーの設置などにより、クリエイティブな学びや体験が可能な施設とします。	150 m <sup>2</sup>
	縁側	機械等を用いるクローズドな部屋だけでなく、共用部や縁側部分を活用し、アート企画やものづくり企画などをオープンに活動できるようにします。	屋外機能の縁側に含む。
	外側	屋外でのものづくり体験を想定し、作業しやすい平場や水場	屋外機能の外



機能名	基本方針		計画規模
	側	等の設備も考慮して設計します。	側に含む。
子育て支援機能	内側	施設には、授乳室やおむつ交換が可能なトイレの完備、ベビーカーでも動きやすい動線確保等を徹底します。また、キッズスペースを設けることで小さな子どもを連れて訪れても飽きない楽しい施設にします。	100 m <sup>2</sup> (主にキッズスペース分)
	縁側	幼児向けの本のコーナーやキッズスペースから出やすく、親子共に居場所の選択肢を広げる縁側スペースを確保し、子どもが泣き騒いでも気兼ねなく過ごせる空間を作ります。	屋外機能の縁側に含む。
	外側	子どもが遊び場や居場所を自由に選択できるよう屋内外の動線を確保し、子どもたちが安心して遊べる中庭のような空間を設計します。	屋外機能の外側に含む。
カフェ機能	内側	各機能からアクセスしやすい共用部に、軽飲食が可能なカフェ機能を設けます。ゆっくりカフェを楽しみたい人向けのカフェ専用席を始め、その他テイクアウトした分については、共用部内や縁側部分などに、持ち込み飲食のできるスペースを設けます。	40 m <sup>2</sup> (主にキッチン及びキッチン周囲カウンター分)
	縁側	縁側部分は基本的に飲食可能なスペースとし、カフェ専用席としてもテラス席を設けます。また、天気の良い日は縁側のみでなく、屋外にも椅子とテーブルを設置することで席の拡張を可能とします。	屋外機能の縁側に含む。
	外側		屋外機能の外側に含む。
事務関係・倉庫機能	内側	施設の運営に必要な事務室や管理に必要な機械室、警備室、イベント時等に必要な備品等も収納可能な倉庫などを含まず。	600 m <sup>2</sup>
その他共用部機能	内側	エントランスホール・飲食可能な席(カフェ専用席含む)・ホワイエ・通路・トイレ等を含む共用スペースです。この共用スペースを有効活用することで、専用スペースだけでは足りない規模のイベント等も実施することができます。	1,300 m <sup>2</sup>



機能名	基本方針		計画規模
屋外機能	縁側	各種機能の「内側」と「外側」を繋ぎ、「〇〇テラス」(計画段階では「ヤマテラス」「マチテラス」「図書テラス」「キッズテラス」「カフェテラス」「朝陽テラス」「夕陽テラス」を想定)と名付けて、各種機能部を拡張する役割も持ちます。	2,000 m <sup>2</sup> (各種機能とつながる縁側の全体規模)
	外側	寺尾公園(約1,300 m <sup>2</sup> )を含む、公園・広場を設けます。日常の中で自由に出入りして過ごせる憩いの場となるようにすることはもちろんのこと、イベント時等は屋外会場としても活用できるように考慮して設計します。	4,500 m <sup>2</sup>
駐車・駐輪機能	駐車	利用者用では約100台分(8店会敷地を含む)、主に職員が利用する搬出入用では約10台分、そしてバス乗降場を設けます。	5,500 m <sup>2</sup>
	駐輪	約80台分の自転車を駐輪できる駐輪場を設けます。雨風をしのぎやすい屋根機能のあるスペースに設けます。	100 m <sup>2</sup>
計画規模合計 : 屋内機能 約4,070 m <sup>2</sup> / 屋外機能 約12,100 m <sup>2</sup>			

なお、令和元年度に策定した「須崎市図書館等複合施設基本構想及び建設構想」では、上記の各機能に加え「地域の暮らしを支える買い物機能を複合すること」を掲げていたが、須崎地区の新たな商店や今後の計画を考慮し、**本計画では買い物機能の複合を常時あるものとはせず、イベント等での物販を可能とするという方向性**で進めることとしました。

また、同じく構想段階では、現在整備予定地にある8店会で地域の高齢者のコミュニティ拠点があることなどから、**新たな施設も高齢者たちが訪れやすいコミュニティの拠点となること**を目指しています。屋内の共用スペースや多目的ホール、屋外スペースなどさまざまな場所で活動でき、文化ともなっている「百歳体操」の実施もしやすいスペース等を考慮して設計します。

本施設は、さまざまな世代やジェンダー、障がいを抱える人が訪れて過ごしやすく、なおかつ外国からの来訪者も使いやすいよう、**ユニバーサルデザインに基づいた施設設備**を大事にします。そして、施設内は多世代が居場所を見つけられるように、屋外は市民のさまざまな活動の後押しとなるように、設備や設計デザインを工夫します。

図表3 - ③ ユニバーサルデザインに基いた整備方針

主なエリア		ユニバーサルデザインの方針
玄関		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場からできるだけ近く、動線が良い位置に玄関を設置します。</li> <li>・障がい者や小さな子ども連れでも乗り降りしやすいよう車寄せを設けます。</li> <li>・扉は自動ドアとし、手足が不自由でも自ら出入りしやすいようにします。</li> </ul>
図書館	カウンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開架スペースを一望できるようにし、子どもや車椅子利用者でもコミュニケーションがとりやすいように高さ等も工夫します。</li> </ul>
	開架スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトラックやベビーカー、車椅子が十分に動ける幅を確保して通路を設けます。</li> <li>・子どもや車椅子の利用者でも見やすい本棚の高さに配慮します。</li> </ul>
	児童スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児や児童が楽しく安心して読書活動できるよう専用スペースを設け、児童向けOPAC（Online Public Access Catalog：利用者に供されるオンラインの蔵書目録）の設置や子どもトイレの設置をすることで滞在しやすいようにします。</li> </ul>
	その他諸室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自習等が可能なサイレントルームやグループ学習等に使える会議室、職員たちの作業室等諸室においても、目的に応じてさまざまな人が使えるようデザインします。</li> </ul>
ホール	メインスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民も会場設営がしやすい備品収納や設営の仕組みを工夫します。</li> <li>・さまざまなジャンルの表現に対応できる材質を検討します。</li> </ul>
	バックヤード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子やベビーカーでも通ることができる通路を確保します。</li> <li>・安心して着替え等が可能なスペースを設置します。</li> </ul>
クリエイティブ諸室		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCルームや各種編集ができるコーナー、3Dプリンター等のものづくりが可能なコーナーなども、それぞれ車椅子やベビーカーも通れる通路を確保すると共に、車椅子のまま利用できる場所も確保し、誰もがクリエイティブな活動に参加できるようにします。</li> </ul>
キッズスペース		<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児と児童が安心かつ安全に遊べるようゾーニングに注意し、乳児と幼児も安心して遊べるよう空間分けを配慮します。</li> <li>・保護者の目線の届く範囲で遊べて「走る・騒ぐ・寝転ぶ」が可能なスペースとします。</li> <li>・屋内外への出入りや屋外での活動も安心して見守れる空間設計をします。</li> </ul>

主なエリア		ユニバーサルデザインの方針
カフェ		<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用も想定し、誰もが働きやすいカフェ運営を想定した設備及び設計とします。</li> </ul>
トイレ 授乳室		<ul style="list-style-type: none"> <li>男女トイレ、多目的トイレを設置します。</li> <li>男女共に子連れで利用できるおむつ換えコーナーを設置します。</li> <li>授乳室は母子が安心して利用できるよう工夫します。</li> </ul>
共用スペース		<ul style="list-style-type: none"> <li>共用スペースを有効活用し、テーブルや椅子、ベンチ等を設置して多世代がくつろぎ交流できる空間とします。</li> <li>車椅子やベビーカーでも通りやすいよう十分な幅を確保します。</li> </ul>
展示・サイン等		<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルを活用した展示や英語表記等外国人にも伝わる表記、障がい者のための表記等も考慮して展示物やサインをつくります。</li> </ul>
屋外	駐車・駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内外から訪れる人たちのために十分な台数を確保（来館者用 100 台 / 職員及び公用車用に 10 台程度）して駐車場を整備します。</li> <li>市内の小中学校で訪れる場合や外部から訪れる団体向けに、大型バスでも出入り可能な駐車スペース及びロータリー部分を設けます。</li> <li>障がい者駐車場は施設に出入りしやすい場所に設けます。</li> </ul>
	寺尾公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな複合施設と一体的に利用できるよう再整備することとし、小さな子どもや障がい者でも安心して過ごせる公園とします。</li> </ul>
	その他敷地内	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内の屋外スペースも、バリアフリーで出入りしやすいように、段差の少ない整備とし、誰もが過ごしやすいようベンチ等を設けて居場所づくりを工夫します。</li> <li>市民企画を実現しやすいよう、キッチンカーなどが入れるスペースや水場の設置、簡易的な特設ステージの設置、マルシェのような多数の出店者ブース設置が可能な設計とします。</li> </ul>